

WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.122

2022.9.25 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.122 目次

令和4年度総会報告(収支報告)	2
バイオリギングによるカンムリウミスズメの採餌生態調査	3-6
愛玩動物看護師の国家資格化の経緯とこれからの展望	7-8
令和4年度 油等汚染事故対策水鳥救護研修のご案内	9
市民連携 行政動かす「比企の太陽光発電を考える会」代表 小山正人さん (東京新聞記事)	10
海に生きる昆虫	11
寄付のお礼	11
事務局日誌	11-12

令和4年度総会報告(収支報告)

令和4年4月10日(日)に令和4年度総会がWRV・立川事務所にて開催され、全ての審議案件について承認されました。以下に、令和3年度収支報告・令和4年度収支予算を改めてご報告致します。

会計報告 (特定非営利活動)

令和3年度収支報告書(令和3年1月1日から令和3年12月31日まで。単位:円)

収入の部	金額	支出の部	金額
年会費収入	794,000	事業費	
事業収入	460,000	①傷病野生動物の救護と野生復帰	311,046
委託事業収入	7,786,545	②病性鑑定及び疫学調査	0
補助金収入	0	③学会報告、会報、講習会、HP等	5,403,204
寄付金収入	97,185	④野生動物の傷病予防に関する事業	0
預金利息	656	⑤生物多様性の保全に関する事業	0
雑収入	0	⑥野生動物の救護施設に関する事業	0
収益事業会計繰入金	0	⑦他団体との交流	44,232
収益事業収入	264,530	⑧収益事業原価	42,754
		管理費	2,880,928
		租税公課(消費税)	524,700
当期合計金額	9,402,916	当期合計金額	9,206,864
当期収支差額	196,052		
法人税等充当金	-70,000		
前期繰越収支差額	38,342,521		
次期繰越収支差額	38,468,573		

<令和3年度の主な事業実績>

- ・環境省水鳥救護研修センター業務請負事業(水鳥救護研修・情報整備事業等)
 - ・同請負事業及び一部リモート(オンライン)による研修の実施
 - ・日本獣医生命科学大学、帝京科学大学、東京環境工科専門学校等、特別実習の実施
 - ・傷病鳥獣救護活動、および診療カルテの集約、学会(リモート開催)参加等
 - ・「ヒナを拾わないで!!」キャンペーンの実施(共催)
 - ・関係団体との事業協力および事業等への参加(本部、各支部)
 - ・国際協力(リモートによるJICA研修の実施 等)
 - ・野生動物リハビリテーター養成事業(神奈川支部)
 - ・各地の研究会、委員会、シンポジウム等への参画(リモートを含む) -その他
- ※令和3年度もコロナ禍のため定例の講習会等が中止となり、また関係団体等による諸事業も中止またはリモートによる開催となるケースが多く、活動が大きく制限されました。

令和4年度予算案(令和4年1月1日から令和4年12月31日まで。単位:円)

収入の部	金額	支出の部	金額
年会費収入	850,000	事業費	
事業収入	540,000	①傷病野生動物の救護と野生復帰	330,000
委託事業収入	8,220,000	②病性鑑定及び疫学調査	20,000
補助金収入	0	③学会報告、会報、講習会、HP等	5,900,000
寄付金収入	90,000	④野生動物の傷病予防に関する事業	10,000
預金利息	0	⑤生物多様性の保全に関する事業	10,000
雑収入	0	⑥野生動物の救護施設に関する事業	10,000
収益事業会計繰入金	0	⑦他団体との交流	80,000
収益事業収入	300,000	収益事業原価	40,000
		管理費	3,000,000
		租税公課(消費税)	600,000
当期合計金額	10,000,000	当期合計金額	10,000,000
前期繰越収支差額	38,468,573	当期収支差額	0
		法人税等充当金	0
		時期繰越収支差額	38,468,573

バイオリギングによるカンムリウミスズメの採餌生態調査

帝京科学大学 教授 森 貴 久

動物の行動や生態を調査する場合、その動物をずっと観察することが基本になる。たとえば、霊長類を含むサルの研究などでは、個体を識別して追跡することで多くの成果を挙げている。これは、サルの動きが人間と比較的近く、野外でも追跡しやすいことが一因であるだろうが、それでもサルと同じように野外を移動することは人間には困難である。まして、空を飛ぶ動物や水中に潜る動物をずっと追跡して観察して記録することは、ほとんど不可能である。それではどのように調査したらいいだろうか。

研究者はこう考えた。「人間が記録できないならその動物自身に記録してもらえばいい。」これが「バイオリギング」である。

バイオリギングによる動物行動の研究は、もともとは海棲哺乳類の潜水行動の研究から始まった。水深（水圧）データを継時的に記録する（ログをとる）記録計（データロガー）をアザラシに装着して、その潜水時間と潜水深度を測定したのが始まりである。その後すぐに、潜水する鳥類であるペンギンでの研究が続いた。水圧は物理的な力なので計測して記録しやすく、潜水行動を記録するロガーを作りやすかったのだろう。とはいえ、当時のロガーはかなり大きく、したがって装着できる動物種も比較的大型である必要があった。ペンギンは鳥類では大きなほうである。ペンギンの潜水行動が、バイオリギングの黎明期に多く研究された要因の一つがその大きさだった。

水深を記録するデータロガーは、ある瞬間の水深（水圧）をセンサーで測定してその大きさに応じた電気信号を発生させ、それをデジタルでメモリに記録することで水深を記録している。データは、ある瞬間の水深記録として表で出力される。最近のロガーは記録チャンネルの多様化が進み、GPS 信号や加速度、動画撮影など、基本的にはデジタルで記録されるものであればどんなものでも残すことができる。そういう入力デバイスを含んだサイズやデータ容量、あるいは電池容量の制限はあるが、これらも日々改良されている。

ロガーの小型化によって小型の動物種への装着も可能になり、より多くの種の生態についてバイオリギングで明らかにできるようになってきている。そのなかで私が近年関わっているのが、カンムリウミスズメ *Synthliboramphus wumizusume* の採餌生態の解明である。

カンムリウミスズメは日本近海でのみ繁殖する海鳥で、国の天然記念物に指定されている。体長は約 24 cm、体重は約 180 g、翼開長は約 45 cm ほどで、ウミスズメ類の中では小型のサイズである。魚食性で、潜水して採餌する。3 月～5 月の繁殖期には繁殖地に集まって繁殖するが、非繁殖期には主に海上で過ごす。また、非繁殖期には長距離の移動をすることが知られている。

本種の繁殖地は九州沿岸や瀬戸内海、伊豆諸島周辺の数カ所が知られている。このなかで静岡県下田市の神子元島は、カンムリウミスズメの繁殖地として以前から知られており、2010 年からは（公財）日本野鳥の会が、人工巣を設置して繁殖個体数を増やすプロジェクトを実施している。この神子元島のカンムリウミスズメについて、データロガーを用いた採餌生態調査を行ったので、その結果について紹介しよう。

もともとの調査の目的は、本種が島の周囲の海域のどこでどのくらいの深さで潜っているのかを調べることで、ヒトの海域利用との重複と軋轢の程度を明らかにして、本種の保全に寄与する基礎的な生態情報を得ることだった。この島の周囲はよい漁場として知られていて、漁業活動の影響（魚種の競合や混獲、漁船との衝突など）を受けやすいと考えられる。加えて下田市沖では大規模洋上風力発電の建設計画があり、水深 20m 以浅の海域が建設候補地となっており、神子元島はその候補海域の

東端に位置している。この建設の過程だけでなく建設後にも影響がでる可能性があり、そういう問題を解決するための一助となることも目的の一つとしていた。

調査は 2018 年，2019 年，2021 年の 4 月に実施した。時期としては本種の繁殖期の後半にあたり，そろそろ雛が孵化する時期にあたる。この時期の夜間に霞網で捕獲した個体を対象に，位置情報と水深を記録する小型 GPS 水深ロガー（26×16×11mm，6g）を装着して調査を行った（図 1）。



図 1 ロガーを装着したカンムリウミスズメ

記録されたデータは，装着個体を再捕獲してロガーを回収することで得られる。この時期のカンムリウミスズメは，一度海に採餌に出ると 2-3 日後に巣に戻るので，そのタイミングで再捕獲を試みる。再捕獲できなくても，遠隔操作でデータをダウンロードできるようになっているので，近くまで戻っていればデータを得ることはできる。ロガーの装着は，防水粘着テープと瞬間接着剤を使用して行う。腰のあたりの羽毛にこれらを使用してくっつけるのだが，放っておけば脱落するので，再捕獲して外すことができなかつたとしても，装着個体にはそれほど大きな影響はないと考えられている。

この調査では結果として，8 個体から装着後 15-50 時間の位置情報の記録を得た。このうち 4 個体からは潜水行動の記録も得た。記録された 8 個体の位置情報から，これらの個体がよく利用していた海域を調べると，繁殖地である島からほぼ 5km 以内に位置していた（図 2）。

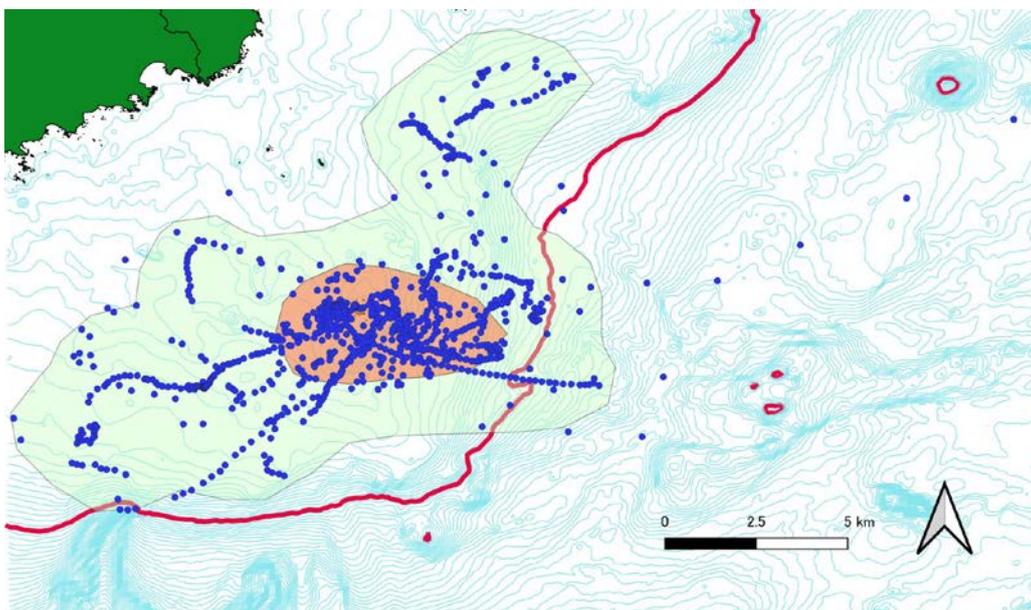


図 2 全個体の位置記録をもとにした行動圏。太線は水深 250m。内側の領域は特によく利用する範囲。

利用海域の特徴としては、だいたい東西方向に広がっているが、島の東側では北東方向へも広がっていた。神子元島の付近では、島の西側から島の東～北東側の方向へ潮流がある。これは黒潮の一部であるが、カンムリウミスズメの利用海域は、この潮流に沿って広がっていた。海底地形としては、島の西側は浅いならかな斜面が多く、東～北東側は急斜面も含む陸だな斜面だった。このような地形で潮流が西から北東方向へ流れると、島にぶつかる付近と急激に海底が落ち込む付近では、湧昇流が生じると考えられる。湧昇流は海底付近の栄養塩に富んだ海水を、植物プランクトンが多い表層部に供給することになるため、「生産性が高い」海域になるが、実際にこの付近は良い漁場として知られている。本種の利用海域はそのような海域と一致しており、採餌場所としては恵まれているといえるが、同時に漁業活動との軋轢が生じる可能性がある。

また、この海域は漁船だけでなく、一般の船舶の航路にもあたっており、実際にカンムリウミスズメが利用する海域は、船舶の交通量が多い海域とも重なる（図3）。船舶に直接衝突して傷つくことはあまりないだろうと考えられるが、それでも水面に滞在する機会が多い本種に対しては、何らかの負の影響があり得る。

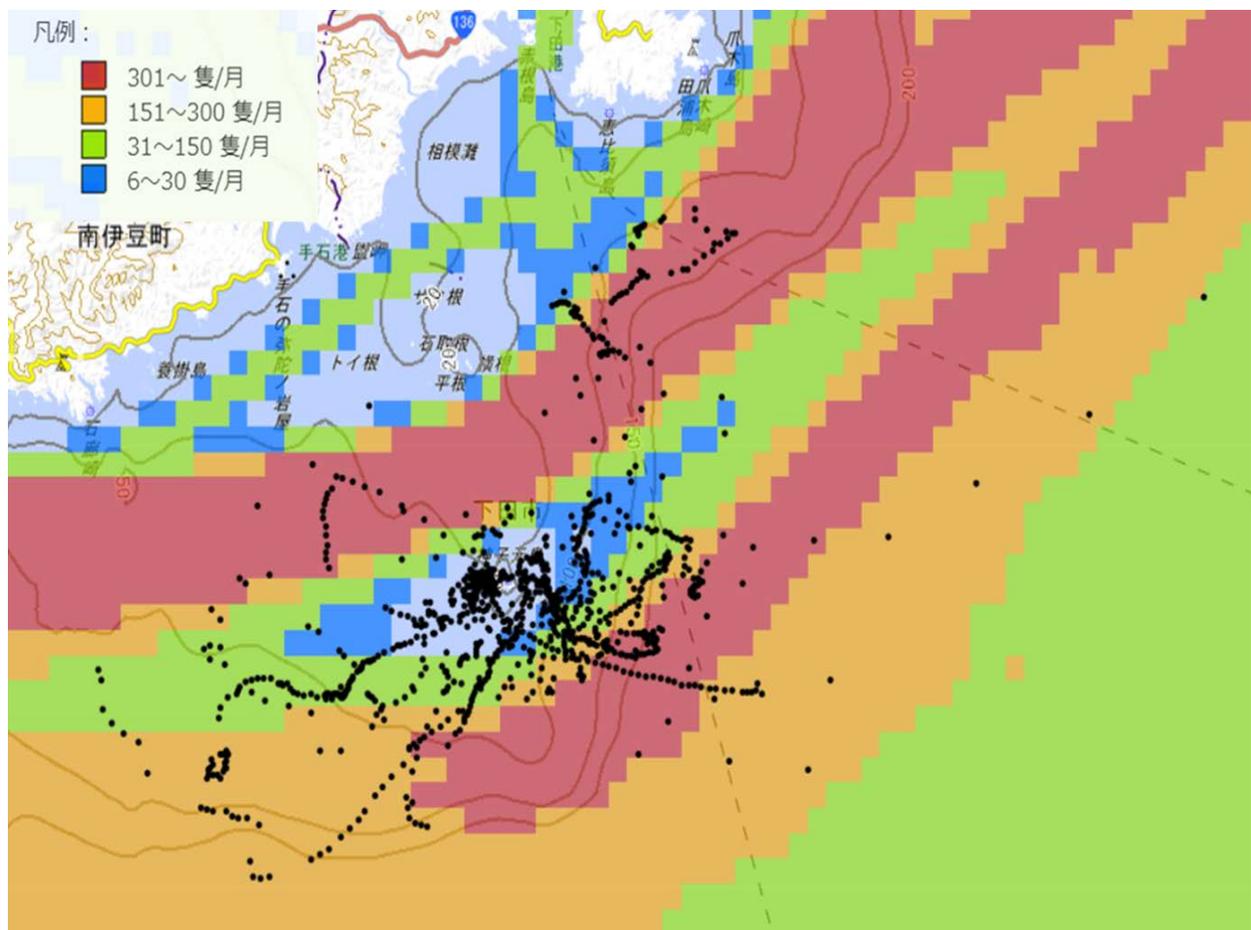


図3 神子元島周辺の2017年の船舶交通量と調査個体の位置記録

潜水行動の記録からは、カンムリウミスズメの最大潜水深度は6.9-13.1mで、平均潜水深度は3.0-4.0mだったことが明らかになった。最大潜水時間は16-40秒で、平均潜水時間は8.2-11.1秒だった。また、薄明薄暮の時間帯に数回の潜水がみられるものの、夜間の潜水は記録されず、主に日中に潜水していた（図4）。

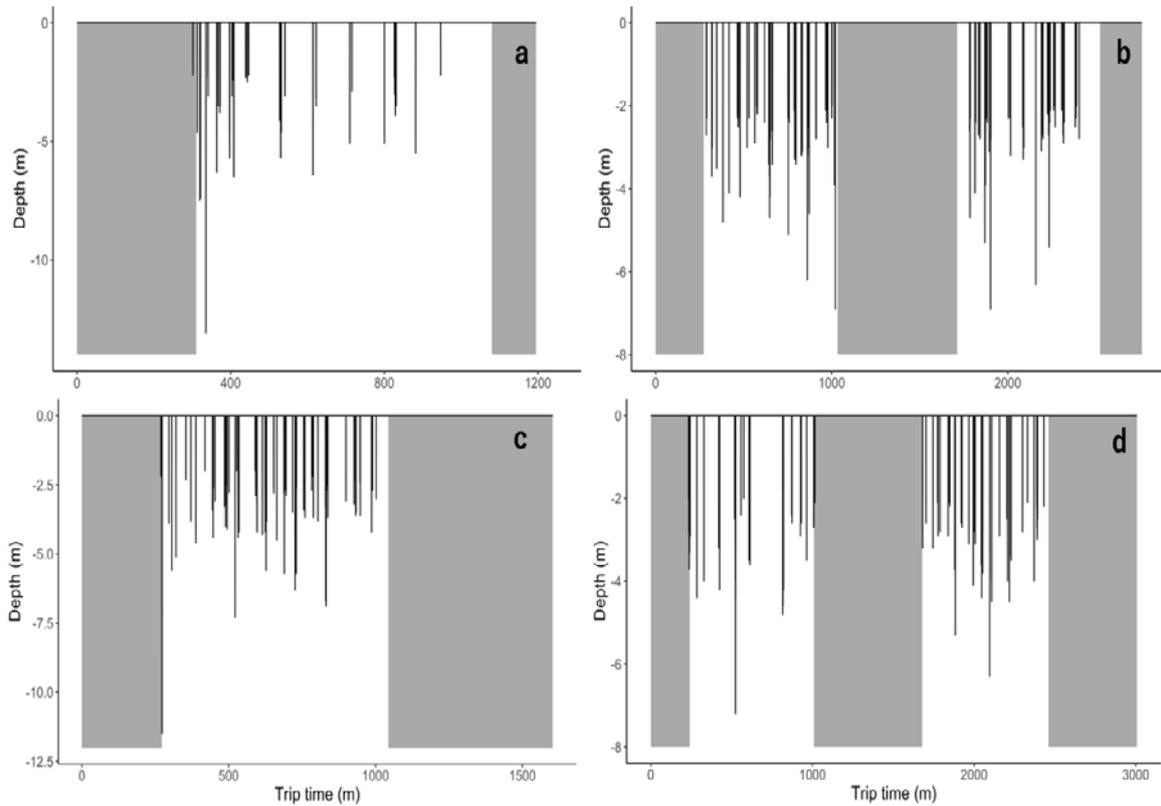


図4 個体ごとの潜水記録。灰色部分は夜間（日没から日の出）を示す。

本種を含むウミガラス類の潜水能力については、体サイズと潜水時間の関係が知られており、それにしただうと、本種のサイズ（170-180g）であれば、最大潜水時間は60秒、平均潜水時間は33秒程度と予測され、平均遊泳速度を1.5 m/秒とすると、最大潜水深度は40m、平均潜水深度は22m程度と予測される。今回明らかになった潜水時間と潜水深度は、本種の体サイズからすると、かなり小さい値となる。おそらく、神子元島で繁殖するカムリウミスズメは、主に表層の浅い水深に分布する餌生物を捕食しているのだろう。また、位置情報の記録から、夜間も島外にいることがわかっているが、潜水はしていないことから、採餌は視覚にたよって行っており、夜間は水面で休息していることが示唆される。夜間の水面利用は、上記の船舶の航行との関係で注意が必要かもしれない。一方で漁業との関係でいえば、本種が利用する餌種と漁業の対象種は異なる可能性が高く、その点での直接の競合は少ないだろう。混獲については、潜水深度が比較的浅く、ここでも漁業の対象となる水深とは直接の重複はない。ただ、ある水深から漁網を引き上げる場合には混獲の可能性があり、本種が捕食の対象とする種も、一緒に捕獲してしまう可能性も否定できない。

この調査から、神子元島のカムリウミスズメが主に利用している海域は、島の周囲5km以内の湧昇流が発生しやすい海底地形をもつ海域であることが明らかになった。このような海域については、海流の方向と海底地形を照合することで、ある程度推測することが可能であり、この知見は他の地域で繁殖するカムリウミスズメの採餌域の推測にも応用することができる。この知見をもとにカムリウミスズメの主要な利用海域について候補地点を挙げることで、漁業や洋上風力発電を含む海洋環境の開発の本種への影響を予測することが可能になる。また、潜水行動の基本的な特徴が明らかになり、漁業からの軋轢を回避する具体的な方法の検討ができるようになった。人間活動が本種に与える影響をより正確に予測するためには、今後、対象とする個体数を増やして、長期間にわたる調査を複数箇所で行う必要がある。

愛玩動物看護師の国家資格化の経緯とこれからの展望

日本動物看護学会理事長・WRV会員 櫻井富士朗
日本動物看護学会事務局長・日本獣医生命科学大学非常勤講師 清水 宗春

1. 日本動物看護学会での活動

令和元年6月に愛玩動物看護師法が交付され、政省令施行等をへて、いよいよ令和5年2月19日に第1回愛玩動物看護師国家試験が開催されます。WRV会員病院のスタッフも、特例処置での受験者は、本年11月6日の予備試験に向けての補習教育に、ねじり鉢巻きで励んでいることと思われます。筆者は、1995年創立の日本動物看護学会設立(初代会長：今道友則先生)に関わった経緯から、WRV事務局よりこのたびの執筆を依頼されました。

日本動物看護学会は動物看護学の発展と深化を掲げる研究団体であり、動物看護学を学問として育てることを目的としています。現在では、日本学術会議より協力学術研究団体に指定され、「動物看護」の名前を冠した唯一の学術団体として、学会誌はJ-stageにも登録され、国内外からも高い評価を受けるようになっていきます。

設立当時は、動物看護師育成の黎明期であり、動物看護学の概念や職域、カリキュラムの検討などに精力的に取り組みました。その成果を、わが国で初めての認定教科書として獣医・動物看護業界に提供し、それを背景に資格制度の確立にも取り組みました。

2. 愛玩動物看護師の資格制度

それまで、いくつかの民間団体から発行されていた動物看護師資格を統一するために(表1)、(公社)日本獣医師会の支援も得て、2011年に設立されたのが『動物看護師統一認定機構』(以下「機構」)です。

2012年1月に実施された最初の統一試験は、資格発行は各団体にゆだねられましたが、登録については「機構」の業務でした。草創期の混乱を経て、試験・資格登録ともに「機構」が担ったのは2013年2月からです。愛玩動物看護師の国家資格化により、「機構」による統一資格試験は2022年2月実施回で最終となりました。「機構」は2023年(令和5年)2月実施の第1回国家試験を、国の指定機関としてにないます。同時期の2009年に、愛玩動物看護師の唯一の職能団体として、『日本動物看護職協会』(後に一般財団法人)が設立されました。倫理綱領の序文には、「動物も人と同様に、自らの存在を尊重され穏やかな一生を送ることを保証されなければならない。・・・愛玩動物看護者は、動物看護の専門職であり、愛玩動物の診療補助、看護並びに動物使用者等に対する動物愛護及び適正飼養の支援をする」と示されています。(文責・櫻井富士朗)

NPO法人 日本動物衛生看護師協会	開始 1981年
一般社団法人 日本小動物獣医師会	同 1989年
全日本獣医師協同組合	同 1996年
公益社団法人 動物病院協会	同 2000年
日本動物看護学会	同 2003年

表1 統一された民間ライセンス発行団体

3. これからの展望

愛玩動物看護師法(令和元年法律第五十号)において、愛玩動物看護師とは、次に掲げる業務を行う者と定義されました。

①診療の補助

②愛玩動物の世話その他の看護

③飼育者に対する愛護及び適正な飼養に係る助言その他の支援

これにより、愛玩動物看護師は、動物病院などで診療の補助や看護を行うだけでなく、広く愛玩動物の飼育者に対し、飼育に関する相談・助言を行う者であることが明確となりました。さらに、このことは、動物の愛護及び管理に関する法律（昭和四十八年法律第百五号）（以下、動物愛護法）で規定されている、地方公共団体（都道府県及び指定都市等）の業務のうち、動物愛護管理センターに関する業務（動物愛護法第三十七条の二）を担当する可能性があることを示唆しています。

さらに、動物愛護法第三十七条の三では、地方公共団体の動物愛護管理担当職員について規定していますが、同条第3項において「動物愛護管理担当職員は、その地方公共団体の職員であつて獣医師等動物の適正な飼養及び保管に関し専門的な知識を有するものをもって充てる。」とあり、これまで動物愛護行政を担当する職員として、獣医師を正規職員採用してきた各地方公共団体において、国家資格者であり、かつ適正飼養の助言・支援を業務とする愛玩動物看護師についても、今後、正規職員として公募し、採用する可能性が高まりました。

これは、これまで動物病院がほとんどであった動物看護師の職域が、確実に広まったことを意味しています。

また、令和元年の動物愛護法改正において、「第一種動物取扱業による適正飼養等の促進等」として、動物取扱業者に対する具体的な飼養管理基準が示されており、動物病院においても診療業務以外に、第一種動物取扱業としてペットホテルやトリミングを行っている場合には、その動物病院は以下の基準を遵守する義務があり、動物看護師が動物取扱責任者となっている場合には、その動物看護師は動物病院に基準を遵守させる義務があります。

①飼養施設の管理、飼養施設に備える設備の構造及び規模並びに当該設備の管理に関する事項

②動物の飼養又は保管に従事する従業者の員数に関する事項

③動物の飼養又は保管をする環境の管理に関する事項

④動物の疾病等に係る措置に関する事項

⑤動物の展示又は輸送の方法に関する事項

⑥動物を繁殖の用に供することができる回数、繁殖の用に供することができる動物の選定その他の動物の繁殖の方法に関する事項

⑦その他動物の愛護及び適正な飼養に関し必要な事項

これらのことから、国家資格者である愛玩動物看護師は、愛玩動物の適正飼養の重要性について認識を持ち、その知識を高めておく必要があります。（文責・清水宗春）

参考図書：

- ・日本動物看護学会 教科書編集委員会編：「改訂新版 動物看護学総論」、2013年3月、日本動物看護学会
- ・Hilary Orpet, Perdi Welsh 著、桜井富士朗監訳：「動物看護学実践ハンドブック」2013年8月、インターズー
- ・動物看護コアテキスト編集委員会：「動物看護の基礎5」基礎動物看護学/基礎動物看護技術、2015年11月、ファームプレス
- ・山川伊津子著：「動物看護の歴史」、生物科学「特集、新しい学問としての動物看護学」Vol. 69, Number2, Feb. 2018、農文協
- ・動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会編：「動物臨床看護学3」動物臨床看護学総論、2020年1月、インターズー

令和4年度 油等汚染事故対策水鳥救護研修のご案内

WRV事務局 齊藤量子

日本においては、全国各地で海洋における油等汚染事故が多数発生しています。そのため環境省自然環境局では、油等汚染事故などの発生時に、海洋保全と野生生物保護の観点から迅速かつ的確に対応できるよう、「油等汚染事故対策水鳥救護研修」を例年開催しています。

会員の皆さまには、是非、本研修にご参加いただき、そこで学ばれた事を職場における事前準備や実際の事故対応にお役立ていただきたく、改めてよろしくお願い致します。

研修の詳細案内および参加申込み用紙は、環境省水鳥救護研修センターホームページ、または野生動物救護獣医師協会ホームページからダウンロード可能です。詳しい開催日程が決まりましたら掲載いたしますので、今しばらくお待ちください。ご質問等ございましたら、環境省水鳥救護研修センターまでお気軽にご連絡ください。



生体を用いた洗浄実習



リハビリプールの設置実習

日 程：第1回：現場救護リーダー向け 令和4年10月24日(月)、25日(火)
第2回：鳥獣保護行政担当者向け 令和4年11月16日(水)、17日(木)
第3回：現場救護リーダー向け 令和4年12月20日(火)、21日(水)

会 場：環境省 水鳥救護研修センター研修室 (第1～3回研修)
〒191-0041 東京都日野市南平2-35-2 TEL 042-599-5050 FAX 042-599-5051
HP <http://www.env.go.jp/nature/choju/effort/oiled-wb/>

対 象：国・地方自治体の鳥獣行政等職員、鳥獣保護センター等職員、獣医師、鳥獣保護員、動物園・水族館職員、水鳥救護に携わる関係者等

参加費：無料 (参加のための交通費、宿泊費等は自己負担)

申込先：<https://forms.gle/ZHRsZHrdJG1PzZaGA>



上記 URL・QR コードより申し込みができない場合は電話・メールでも受け付けますので水鳥救護研修センターに直接ご連絡ください。

主 催：環境省

請 負：特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会 (WRV)

埼玉

市民連携 行政動かす

小川町に計画されている大規模太陽光発電所「さいたま小川町メガソーラー」の環境影響評価(アセスメント)を昨年十一月以降、知事、環境相、経産相が相次いで計画の「抜本的な見直し」を求める異例に厳しい意見を出した。計画地の希少生物調査などを通じて問題点を指摘し続けてきた「比企の太陽光発電を考える会」代表で獣医師の小山正人さん(ま)は、「太陽光発電に対する行政の欄目が明らかに変わった」と言う。



鳩山・滑川支部を発足し、支部長に就任。鳩山町にある「熊井の森」で、地元NPOと協力して生きもの調査をしてきた。「森に入るとき(サキ科の希少種)ミソゴイの声を聞き、貴重だと感じた」

「比企の太陽光発電を考える会」代表 小山正人さん



●見つけるのが非常に難しいミソゴイの営巣を確認したことが環境影響評価(アセスメント)手続きに大きな影響を与えた＝小川町で(比企の太陽光発電を考える会提供)
●「地域の生物多様性を守ることがライフワーク」と語る小山正人さん＝東松山市で

こやま・まさと 北海道旭川市出身。1994年、北里大学獣医学部(現獣医学部)を卒業後3年間、後志農業共済組合で乳牛の診療に従事。熊谷市の動物病院での研修を経て2001年、獣医師の妻和美さんと東松山市で高坂どうぶつ病院を開業。傷病野生鳥獣保護の県指定を受け、年約100件に上る傷病鳥獣を受け入れている。

human story

二〇一四年、所属する埼玉県生熊系保護協会から求められ、同協会の東松山・

幅広い分野に広がる
総合型企業
ダイオープリンティング株式会社
〒127-0054 東京都葛飾区北砂1-19-4 オーク大塚ビル
〒127-0054 東京都葛飾区北砂1-19-4 オーク大塚ビル
〒127-0054 東京都葛飾区北砂1-19-4 オーク大塚ビル
〒127-0054 東京都葛飾区北砂1-19-4 オーク大塚ビル
〒127-0054 東京都葛飾区北砂1-19-4 オーク大塚ビル

県内の天気
さいたま 晴
熊谷 晴
秩父 晴
きょうの予想(さいたま)
降水確率 朝80% 昼80% 晩90%
気温 最高11度 最低6度
北の風

さいたま支局
〒330-0063
さいたま市浦和区
高砂3-12-24
小峰ビル2F
電話 048-834-0300
FAX 048-834-0511
mail:saitama@tokyo-np.co.jp
通信局・部
熊谷 048-521-2724
越谷 048-989-7770
羽生 048-561-2523
川越 049-223-8814
秩父 0494-22-1596

50	+1
408	+1
412	
247	+11
093	+4
413	+14
953	+16
549	+32
867	
005	+55
205	+1
387	+4031
056	+3551
395	+8
の状況	
822	+5
690	+16
237	+809
156	+5
り表との比較	

皆野町長選あす生豆示
町議補選も
皆野町長選と町議補選(被選挙権)は五日、告示される。町長選は、元町議の小杉修一さん(ま)と、林豊さん(ま)、大沢径子さん(ま)と、文化企画会社社長(ま)の計四人が立候補を表明している。町議補選には、ともに無所属で元職一人と新人一人が立候補を表明している。投票率は、いずれも十日。今年三月一日現在の選挙人名簿登録者数は八千二百三十三人。(久間木聡)

彩の国 情報ファイル

- ◆あなたはどうする? 新型コロナウイルス ワクチン 緊急シンポジウム in 埼玉 10日午後1時~4時半、越谷サンシティ大ホール。京都大の宮沢孝幸准教授、大阪府泉大津市の南出賢一市長らが講演。参加費・中学生以上1000円。オンラインも可。事前申し込み、問い合わせはメール=saitamasyp@gmail.com。
- ◆第31回三郷市美術協会展 10日まで、三郷市文化会館展示室。入場無料。問い合わせは根本さん=048(953)5302。
- ◆福島から伝えるパネル・映像展 5~11日、さいたま市市民活動サポートセンター多目的展示コーナー。また10日午後2時半から新潟県立大学教授の山中知彦さん、認定NPO未来といのち代表の小西由美子さんのギャラリートークあり(定員先着15人)。いずれも入場無料。問い合わせは塚田さん=048(887)7786。
- ◆薬田ひさし・梨伽の絵画二人展2022年 12~17日、県立近代美術館一般展示室3(地下1階) =048(824) 薬田ひさし・梨伽の絵画二人展 2022年無料。
- ◆第30回桶川市美術会展 12~17日、響の森桶川市民ホールギャラリー。入場無料。問い合わせは宮治さん=048(786)6751。

東京新聞 2022年4月4日記事より

※121号に掲載させていただいた小山正人理事による報告に関連する新聞記事です。

海に生きる昆虫

前号(121号)で、海を越えて渡りを行うアサギマダラをご紹介しましたが、昆虫の中には海そのものを生息域としている種もいくつか存在しています。その代表とも言えるのが、ウミアメンボの仲間です。

ウミアメンボ属に分類されている種は、今のところ世界で50種近く確認されていますが、そのうち日本の近海で見られるのは6種ほどとなっています。その中で、ウミアメンボなど3種が主に入り江や湾内、あるいは沿岸地帯に生息し、ツヤウミアメンボなど3種が主に外洋に生息しています。いずれの種も翅(はね)を持たないため、飛ぶことができず、もっぱら水面や足場の上を、脚を使って移動します。

沿岸地帯に生息する種は、繁殖の際、岩場などに産卵しますが、外洋性の種は、海に漂っている海藻類や流木、あるいは現在世界中で問題となっている廃棄されたプラスチック容器などに産卵します。餌については、様々な小動物の体液を吸うことによって賄っています。

特に外洋性の種の分布域は広大で、太平洋、インド洋、大西洋にわたり、数千kmにも及びます。まさに昆虫の中でも、極めて特異な分布と生態を有していることが伺い知れます。

一方、一般によく知られた藪蚊(やぶか)の中にも、海水を利用して生きている種が存在しています。それがトウゴウヤブカで、この種は主に海岸の潮溜まりに発生します。幼虫であるボウフラは、塩分に対する耐性が強く、海水中でも何ら問題なく成長し、最終的に成虫となって飛び回ります。海水浴や釣り、あるいは潮溜まりの生き物の観察会などに出かけた際、かなりヤブカに刺された経験を持つ方もおられるかもしれませんが、その際の主な犯人(?)は、このトウゴウヤブカということになりそうです。

あらゆる生物種の中で、その半数以上を占めている昆虫ということもあり、やはりこうした海に生きる種も存在していることについては、素直に納得してしましますが、読者の皆さまはいかがでしょう。



ウミアメンボ



トウゴウヤブカ

(WRV 事務局長 箕輪 多津男)

【 事務局より寄付のお礼 】 寄付ご協力者(敬称略)(令和4年6月1日から令和4年8月31日)

○寄付金(一般) 2022.6.2 アミ動物病院(安田剛士) 90,360円 2022.6.6 白倉 豊 1,500円
2022.8.19 松浦 恵子 100,000円

事務局日誌 2022.6.19~2022.9.15

=== 6月 ===

- | | |
|--------------------------------------------------------|--------------|
| 19: 稲城市犬の飼い方講習会(稲城市中央文化センター) | 対応: 小松 |
| 22: 第79回日本獣医師会 通常総会(明治記念館) | 対応: 新妻、小松、中川 |
| 22: 令和4年度日本獣医師連盟 四役会議(明治記念館) | 対応: 小松 |
| 23: 令和4年度第2回わいわいサロン(オンライン)[神奈川支部] | 対応: 皆川 |
| 23,26: 神奈川県野生動物リハビリテーター更新講習会代替課題(犬猫・野生動物救護センター)[神奈川支部] | 対応: 皆川 |
| 24: 傷病野生鳥獣保護治療状況確認((公社)東京都獣医師会・書面) | 対応: 箕輪 |
| 24: 帝京科学大学アニマルサイエンス学科1年アニマルサイエンストピックス講義(千住キャンパス) | 講師: 皆川 |
| 30: WRV ニュースレターNo.121 発行 | 対応: 小松、箕輪、齊藤 |
| 30: 東京環境工科専門学校生・野生動物救護実習(東京環境工科専門学校)[神奈川支部] | 対応: 皆川 |

=== 7月 ===

- 01: 2022年度第2回獣疫学会担当理事・幹事会 (Web開催) 対応: 加藤
- 01: 東京環境工科専門学校生・野生動物救護実習 (東京環境工科専門学校) [神奈川支部] 対応: 皆川
- 04: 帝京科学大学・野鳥及び油汚染鳥救護実習 (上野原キャンパス) 対応: 箕輪
- 05~06: 帝京科学大学・野鳥及び油汚染鳥救護実習 (上野原キャンパス) 対応: 皆川
- 07: 帝京科学大学・野鳥及び油汚染鳥救護実習 (環境省水鳥救護研修センター) 対応: 皆川、箕輪、齊藤
- 08: 神奈川県鳥獣総合対策協議会シカ対策専門部会 (波止場会館) [神奈川支部] 対応: 皆川
- 10,17,24,31: 犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動 [神奈川支部] 対応: 皆川
- 11: 帝京科学大学・野鳥及び油汚染鳥救護実習 (上野原キャンパス) 対応: 箕輪
- 12~13: 帝京科学大学・野鳥及び油汚染鳥救護実習 (上野原キャンパス) 対応: 皆川
- 14: 帝京科学大学・野鳥及び油汚染鳥救護実習 (環境省水鳥救護研修センター) 対応: 皆川、箕輪、齊藤
- 20: 2022年度 JICA 研修打合せ ((公財)海上保安協会: 立川事務所) 対応: 箕輪
- 20: 2022年度 JICA 会場確認 ((公財)海上保安協会: 環境省水鳥救護研修センター) 対応: 齊藤
- 21: 自由民主党獣医師問題議員連盟総会 (自民党本部) 対応: 小松
- 26: 東京都獣医師会理事会 (Web会議) 対応: 小松、中川、高橋
- 27: 令和4年度東京都外来鳥獣(アライグマ・ハクビシン)防除対策検討委員会・第1回作業部会 (Web開催) 対応: 加藤
- 27: 神奈川県鳥獣総合対策協議会 (オンライン開催) [神奈川支部] 対応: 皆川

=== 8月 ===

- 7,13,21,28: 犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動 [神奈川支部] 対応: 皆川
- 10: 2022年度・日本コウノトリの会総会 (オンライン及び書面) 対応: 箕輪
- 15~16: 日本獣医生命科学大学獣医学科4・5年次野生動物学実習 (水鳥救護研修センター) 対応: 加藤、皆川、箕輪、齊藤
- 18: 東京環境工科専門学校・油汚染鳥救護特別実習 (講義) 対応: 皆川
- 19: 東京環境工科専門学校・油汚染鳥救護特別実習 (水鳥救護研修センター) 対応: 皆川、箕輪、齊藤
- 20: 令和4年度第3回わいわいサロン (オンライン) [神奈川支部] 対応: 皆川
- 21: 子供動物園視察 (東松山子供動物園) 対応: 新妻
- 22: 山梨県アライグマ捕獲従事者養成講習会 (山梨県庁防災新館) 対応: 加藤
- 22~23: 日本獣医生命科学大学獣医学科4・5年次野生動物学実習 (水鳥救護研修センター) 対応: 羽山、加藤、皆川、箕輪、齊藤

=== 9月 ===

- 01: 東京環境工科専門学校・油汚染鳥救護特別実習 (講義) 対応: 皆川
- 02: 東京環境工科専門学校・油汚染鳥救護特別実習 (水鳥救護研修センター) 対応: 皆川、箕輪、齊藤
- 06~08: 第165回日本獣医学会・学術集会 (Web開催) 対応: 羽山、加藤
- 09: 令和4年度「ヒナを拾わないで!!キャンペーン」事業報告書提出 (環境省) 対応: 箕輪
- 10: 犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動 [神奈川支部] 対応: 皆川
- 13: 東京都獣医師連盟・令和5年度予算要望 (都議会自民党・公明党: 都議会会議室) 対応: 小松

野生動物救護獣医師協会 (ホームページ) <http://www.wrvj.org/> (E-mail) kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 122 2022.9.25 発行

発行: 特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局: 〒190-0013 東京都立川市富士見町1-23-16 富士パークビル302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人: 新妻 勲夫 編集文責: 小松 泰史 編集担当: 箕輪多津男
